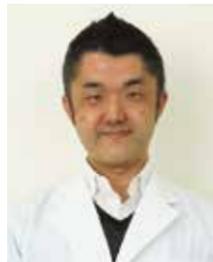


# ドクター + 教えて

## 関節リウマチ治療の最近の話題

磐田市立総合病院 リウマチ科 部長

鳥養 栄治



ここ15年で関節リウマチ治療は劇的に改善しました。その理由は「よく効く薬(生物学的製剤)の開発」と「治療戦略の確立」です。基本的な考え方は早期発見・早期治療と、積極的な治療をする事です。

に感じる痛みや日常生活の不自由さに着目した「患者主観評価」を基に、これらの症状を無くすことを究極のゴールにするという考え方がクローズアップされています。

このような考え方は、これまでのリウマチ治療の進歩から生まれたもので、医学的には良い状態であっても、取り切れない慢性の痛みや日常生活制限により、必ずしも患者さんが十分満足しているわけではないことが分かり始めたからです。

当科でも医師だけでなく、看護師やその他のスタッフが病院の理念である「医療の原点は思いやり」を念頭に置き、患者さんの細かい要望にお応えしながら、「主観評価」のゴール達成を目標にチームで診療に当たっています。一緒に関節リウマチを克服しましょう。

vol.75

### 寄り添い支え合う関係づくり

ふれあい交流センター センター長

金子豊三

# 人権 コラム

昨年、話題になった陸上の桐生祥秀選手。専門は短距離走。男子100メートルの現日本記録保持者。公認記録では日本人史上初の9秒台となる9秒98を記録しました。日本中が待ちに待っていたと言っても過言ではないでしょう。

人の持つ力とは大したものですが、

地面を蹴って素早く走るために、目標を立て、さまざまな方法で体を鍛え、日々努力を重ねて記録を向上させてきています。公式の記録は、高いレベルの大会でなければ公認されません。陸上の大会は、雨・風など天候にも左右され、影響も受けます。

心や技が整っていても記録につながるというタイミングは万に一つなのかもしれません。今回の9秒98という記録には、本人の努力はもちろんのこと、選手を取り巻く多くの人たちの支えもあったと思います。その中の一つが、地元をよく知る大会のスターターでした。強い追い風で参考記録になる可能性もあった中、巧みな合図で日本記録の誕生を後押

しました。競技場に設置してある吹き流しを見つめ、「風がやむ時があるだろう」と変化を見守っていると、「リズムがあつて、一定の止まる時間があつた」。そこで、出番までにイメージトレーニングを重ねて、号砲2・0秒を超える追い風は公認されません。

結果、桐生選手のタイムの横に公認ほぼギリギリの追い風1・8秒の表示。地元の風を読み切る、自身の経験を活かして、対象である選手たちに寄り添うことで記録を達成させることにつながりました。

私たちは時として読み間違いの言葉はありますが、他人を生かすための心の有り様や判断力は、意識して生活する中に存在していると思われまます。あるときは誰かに支えられ、あるときは誰かを支え、目の前にいる人に寄り添い、できるだけよい環境を提供したいという気持ちがあれば、そこに思いのほかよい結果につながる関係が生まれるのではないのでしょうか。